



# 協会だより

Japan Tourism Facilities Association

No.65



## 2月

発行 / 社団法人国際観光施設協会  
総務委員会

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋  
2-8-5 多幸ビル九段2階  
TEL03-3263-4844  
FAX03-3263-4845

E-mail : kankou01@syd.odn.ne.jp

URL : <http://www.kankou-fa.jp>

2008年2月1日

## 谷崎潤一郎の旅行観

副会長 平田 純一

谷崎潤一郎は、昭和10年文芸春秋7月号に「旅のいろいろ」という文章を発表しています。73年前のことです。この文章の冒頭で2つのエピソードが紹介されています。私なりに要約すると、

1つ目・・・旅行家で著述家でもある西洋人で、日本をしばしば訪れるその人は、風俗・習慣・建築などに、古い日本の美しいものが保存されている地方は北陸の某所であり、訪日のたびにそこを訪れるが、決して人に紹介したり発表したりしないとのことである。それはその土地が世間に知られると、都会の客がどっと押し寄せて、本来の特色が失われてしまうからであるという。

2つ目・・・食通は旅先でうまいもの屋を発見しても、友達などに教えたりしないという。紹介したり発表したりして繁昌し出すと、増築したり外観が立派になったりするかわりに、材料の質をおとしたり、料理の手を抜いたり、サービスがぞんざいになったりするからであるという。

谷崎はこのあと、エピソードと同じ考えを展開している。このエピソード自体が谷崎の旅行観と見てよいであろう。いずれにしても73年前すでに船場吉兆や赤福の偽装を予見していたかのような文章です。

[旅のいろいろ...谷崎潤一郎：陰翳礼讃(中公文庫)所収]

本年10月から「観光庁」が発足するとのことで、観光にかかわるすべての人にとって、大変明るいニュースである。主な仕事は、多くの方々が各方面で述べられているように、海外からの訪日客の増大と、国内観光の振興であろうから、観光界に利益をもたらすことであろう。

しかし、谷崎のいう伝統や文化や建築などの日本の良さが消える可能性を秘めているわけで、観光経済新聞のいう負のインパクトも同時に引き寄せることとなります。したがって、観光振興には負のインパクトは避けられないものとするれば、せめてそれを最小限にとどめて発展をはかることが大切なこととなります。

## 立春に寄せて

事業委員長 立石 博巳

正月も早や過ぎて節分、立春も間近かに迎える頃となりました。今年は観光業界にとりましても、観光庁の創設や新公益法人制度のスタートなど環境が大きく変わろうとしています。

当協会でもまちづくり研究会の二回目が5月8日に長瀬で開催される予定です。総会も6月16日に新設された東京ベイコート倶楽部で予定されています。事業委員会でもこれらのイベントのバックアップを始め、研修旅行(国内外)見学会、忘年交歓会等々さまざまな企画を数多く立ち上げ、会員の皆様を始め一般の方々もお呼びできる様に他部会・委員会とも協力し合い委員一同努力致しますので、ご協力賜ります様よろしくお願い申し上げます。

### ——観光庁が新設されます——

観光立国推進基本法が施行されてから早や一年が経過いたしました。観光立国の実現のための基本的な施策目標として大きく5つの数値目標が示されています。

訪日外国人旅行者数を平成22年までに1000万人にする(平成18年:733万人)

我が国における国際会議の開催件数を平成23年までに5割以上増やす(平成17年:168件)

日本人の国内観光旅行による一人当たりの宿泊数を平成22年度までに年間4泊にする(平成18年度:2.77泊)

日本人の海外旅行者数を平成22年までに2000万人にする(平成18年:1753万人)

国内における観光旅行消費額を平成22年度までに30兆円にする(平成17年度:24.4兆円)

これら「観光立国推進基本計画」を着実に実施し観光立国の推進を強力に進めていくため、国土交通省総合政策局にある観光関連部局を統合し国際観光推進や観光地域振興などの中核的な業務を担いつつ、各省庁の施策の一層の連携を促すための組織を整備することとして「観光庁」を2008年10月に新設する方針が決まったもようです。

## HOTERES JAPAN 2008 ご案内

国際競争力のある質の高い観光地を形成し観光立国の実現を図ることは21世紀の我が国の重要課題であるとされています。昨年からの問題となっている耐震偽装や食の偽装など安全・安心を脅かす問題が表面化しています。このような背景から当協会は最も重要なテーマとして「安全」をとりあげ、独自の切り口で地震被害の実態を展示するとともに無料相談コーナーも設営します。

### 展示ブース東5ホール5H 201

あわせてセミナーを開催し『ホテル旅館の安全確保』について講演をおこないます。

セミナーは「不安なホテル・旅館には泊まらない」と題しました。

講演1 EVの安全対策 日本エレベーター協会 三根俊介氏

講演2 浴場の安全対策 ユニ設備設計代表取締役 小川正晃氏

講演3 厨房の安全対策 NRTシステム取締役 隈元 晃氏

講演4 二度の大地震体験と地震対策マニュアルの重要性

新潟県旅館組合理事長 野澤幸司氏

多数のご参加をお待ちしております

日時：3月11日（火）13：00～16：40

会場：東3ホールセミナールーム 参加費用：無料

### 忘年交歓会 報告

12月6日恒例の忘年交歓会がホテルグランドパレスで188名のご参加をいただき開催されました。今回は観光交流空間のまちづくり研究会に参加されたマネジメント会の方々も合流され、正会員との情報交歓をはかった初めての試みでもありました。

来賓として日本観光協会の中村会長の祝辞、国交省の西阪審議官（観光担当）の乾杯で開会し、懇親ののち恒例の福引を行って楽しい会も幕を閉じました。

### 賀詞交歓会 報告

1月15日ホテルメトロポリタン・エドモントにおいて賀詞交歓会を開催、175名の会員が新年を寿ぎ相互の交流を深めあいました。

はじめに、村尾会長より 昨年閣議決定された観光立国推進基本計画の具体的な目標設定の中で特に国際競争力の高い魅力ある観光地の形成についての課題に取り組んでいくことまた、観光庁の設置が具体的に近づいていくこと、新公益法人制度とこれに伴う税制改正がスタートすること。などについて会員各位と手を携えて取り組んでいく旨の挨拶がありました。

### 事務局からのお知らせ

ホテルズの当協会ブースでは、今年もカタログ展示のスペースを設け会員会社のP・Rの場を用意しております。カタログ展示をご希望の方は、後日ご案内と申込書をFAX送信しますのでお知らせください。

また、ホテルズとF O O D E Xの入場招待券が事務局に多数ありますのでご希望の方はお申し出ください。

## 新入会員紹介 (入会順)

### 【施工】東光園緑化株式会社

(代表者)代表取締役

田丸 敬三

〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南3-7-5

TEL03-3719-4611 FAX03-3793-1852

業務内容：造園土木工事業の設計・施工・管理、花鉢・生花・鉢植木の販売・リース、園芸装飾

### 【設計】株式会社日建設計

(代表者)代表取締役社長

(担当者)理事

岡本 慶一

長谷 昇

〒102-8117 東京都千代田区飯田橋2-18-3

TEL03-5226-3030 FAX03-5226-3058

業務内容：建築の企画・設計監理、都市・地域計画およびこれらに関連する調査・企画コンサルタント業務

### 【メーカー】株式会社東急アメニックス

(代表者)取締役社長

(担当者)法人営業部 FM第2グループ

金指 潔

グループリーダー 功刀 忍

〒150-0036 東京都渋谷区南平台町16-28 グラシティ10F

TEL03-3780-0521 FAX03-3496-2947

業務内容：建設業（リフォーム業）

### 【施工】株式会社朝日工業社

(代表者)代表取締役社長

(担当者)営業本部 営業統括部

高須 康有

部長代理 田村 俊司

〒105-8543 東京都港区浜松町1-25-7

TEL03-3432-5821 FAX03-3435-7324

業務内容：総合設備工事業、機器製造販売事業

### 交流部会第92回「ゴルフ会」開催予告

平成20年春のゴルフ会は5月29日（木）に埼玉県内の会場で行います。コース名は現在いくつかのコースと折衝中ですので決まり次第ご連絡いたします。前回お約束したとおり、今回は特別豪華な賞品を用意しますので、早いうちにスケジュールを空けておいていただき、多くの会員の方々の出席をお願いいたします。

### カメラ倶楽部からのお知らせ

これまで交流部会の活動の一環として独自に活動を進めてまいりましたが、今年は従来の計画の他に「温泉のまちづくり」活動等とタイアップしながら、観光資源となる「美しい日本の歴史的風土」を記録として残すような活動も進めていきたいと思っております。

詳細は後日都度お知らせいたしますが、その折には多数のご参加をお願いいたします。

### ♥編集後記♥

長年の懸案であった観光庁の創設が昨年末に閣議決定され、本年10月を目標に業務開始に向けた体制づくりが進められています。また、本年12月1日には公益法人改革3法が施行され、いよいよ現存する公益法人の移行も開始されます。

今年は、内外共に我々を取り巻く環境が大きく変化し、飛躍するためのスタートの年になるようです。新たな公益法人へ向けた体制づくりの準備は昨年より始められておりますが、協会の更なる躍進に向けて全員で力を合わせて挑んでまいりたいと思っております。

Y.K